

合意が実施されておりますが、ただいま市長から申し上げた、そういう日米合同委員会の申し入れにつきましては、防衛施設庁の長官、あるいは調整官という方々が代表としてこの分科会に入りまして、それらの検討されたものが合同委員会へ提示されるという順番になっております。したがって、防衛施設庁、あるいは横田基地司令官、そういうものが司令官につきましては日米合同委員会の代表になっておるようですが、そういうふうなところへ申し入れて、この騒音に対する勧告に基づいた申し入れはしておるわけです。

以上、経過と、それから内容はそのような措置になっております。

○市民部長(井上久男君) 米軍機の発着の九月から十月までの間で、昨年との比較でございすけれども、これにつきましては、昨年の九月につきましては、一千三百四十九回ということで二百八十五回の減でございまして、さらに十月になりますと一千七百五十三回で四百七十四回の減、十月につきましては二千四百八十五回で一千四回の減で、全体には三カ月間では一千七百五十九回の減になっております。これを月当たりには平均してみますと、

百約五百八十六回、それを一日当たりになりますと十九回ほどの発着回数が減になっております。

以上、はなはだ簡単な数字でございすが、よろしく願ひします。

○千番(遠藤洋一君) どうもいろいろと数字をありがとうございす。

一番最初の就学時健康診断についてなんですけれども、いまお答えいただきましたように、子供の数、あるいはその就学相談の数等々については、よくわかったんですけれども、今年の就学の健康診断の具体的な内容、昨年の場合ですと、耳、目、身長、体重、それから菱形を書かせるというような、菱形を書かせるというのは一見何も無いようですけれども、知能テストの中では大要基本に当たることでありまして、そこで知能をはかるわけですけれども、菱形の検討というのはことしやうれにかどうかというところ、就健の内容を知りたいというふうに思っております。

それからもう一つは、就健に参加をして、具体的に仕事に当たった人、教育委員会と、それからほかにもパートの方やなんか使っておる人ではないかと思うんですけれども、そのどういう方々が就健に当たったかということ

について、一応健康診断については知りたと思いますし、教育長にちよとお尋ねしたのは、新学時健康診断だけではなくて、三歳児、六カ月検診というのがあるんですが、それと小学校に入ってからのおとの検診もせうですけれども、世田谷とか大田なんでは、これコンピュータに入れるというところで大問題になってるんですが、コンピュータに入れて子供たちの健康診断、管理というよりもエックをしてるわけですから、コンピュータ導入の考えというのは、いまのところ、話に出たりあるは持ってるかどうかをちよと伺っておきたいと思ひます。

それから五十六年度の職員採用についてはよくわかりましたが、その人員増を抑えるという、それは全体に東京都の鈴木さんの方針でもありますでしょうし、この町の方針でもある。市長の施政方針でもあるということであつてありますけれども、ちよと伺っておきたいのは恒常的なパートの方があると思うんですが、その方の人数を知りたいということ、それから恒常的にパートで働いてる方については、とにかく正式に新規に採用するところでのチャンスは今回は与えられなかったのかどうかということに

ついてもちよと伺っておきたいと思ひます。

新採用に関して広報等で見ましたけれども、大変に厳しい条件がつけられておりますので、大変きついかばと思ひつておりますけれども、特に恒常的に働いてる人でも応募できるのかどうかも含めて知りたいなと、ちよと伺ひたいと思ひます。

それから横田基地の発着についての回数についてはよくわかりますが、その合同委員会への申し入れということについても、今回初めて聞きます。なるほどこんな細いことも勧告をしてるんだなということもよくわかりますが、これは要するに合同委員会から横田基地の司令官への勧告なのか、それとも在日米軍への勧告なのかということを知りたいなと、ちよと伺ひたいと思ひます。

それからあと、これで見える限り、テストなしを六時から翌朝七時まで、日曜日から金曜日なんというのは、夜中でもエンジンテストが平気で行われてますし、それから高度については、ちよと下から見てよくわかりませんけれども、必ずしも高度が守られてゐるとは余り思ひませんし、

人口集中地は避けるということですが、市役所の真上を飛んだり
ということもあるわけです。市役所のこの辺は人口集中地ではないと言え
ばいいかもしれませんが、考えられ、これがあつて、合同委員会での勸
告の内容が実際には守られていないということですから、市長はこれに
がんばつて、何とかその……、いまの話を市長から聞く限り、一体市長
がだれに申し入れてるのかよくわかんないです。合同委員会への申し入
れというのは一体どこに申し入れてるのかということ、ちよつと知りた
いと思つてゐるのと、たとえば十月八日の調査ですが、ちよつと日にちにはちよう
ど大変、日だったもので調査をしたんですが、実に五機のC130が並んで
市内上空旋回飛行をやつていたので、五機ですよ。普通一機でも
大変なのに、五機並んでわすかすつ離れてつばが飛んだりなんかし
てるんですから、大変びっくりしたことがあるんですけれども、少なくとも
その合同委員会の内容については、本当にその条件に近いかどうかは、
かというところもあります。ただ私が聞いたのは、その一体市長さん、
だれにそのことを申し入れてるのかということ、ちよつと伺いた
いと思います。

以上、ちよつと敏衆雅になつて申しわけないんですけれども伺いた
いと思います。
○議長（小林 菊三君） 二時十分まで休憩いたします。

午後一時五十九分 休憩

午後二時十二分 開議

○議長（小林 菊三君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○市長（田村 匡雄君） 自席から失礼いたします。

ただいま遠藤議員さんから、日米合同委員会の組織はどうな
つてゐるかということ、横田基地の關係の騒音に關すること、へ言つて
ゐるのかということだと思ひますので、一応組織の点についてお答えに
します。

基地關係といひますと航空機対策分科委員会というのがござい
まして、代表が防衛施設庁、先ほど生子部長から御説明あつ
たとおり施設部連絡調査官でございます。それからアメリカ
側の方は、代表は外務省アメリカ局長でございます。

それで「横田基地指令官は、住民の理解を深め日米相方の協力を推進するため、政府の省機関及び地方公共団体の代表と常時密接な連絡を取る」ということがございますので、私どもといたしまして、横田基地の司令官に申し込むというところでございまして、それから、施設庁の方へ申し入れをいたしまして、日米合同委員会へ持ち込むというふうに組織がなっております。

答弁にかえさせていただきます。

○教育長(木村 盛君) それでは私の方から就学時健診につきまして御答弁申し上げます。

まず第一番に内容でございますけれども、五十五年度と全く同じ五項目でございます。それから従事者は、教育委員会の職員、それから入学を予定されております教頭、校長でございます。

それからなお組合関係の話し合ひでございますけれども、この前私、国交いたしましたわけでございますが、本年につきましてはすでにもう十月に終了してあるということで、国交の件につきましては外したわけでは

ございますけれども、私の希望といたしますと、できれば学校の協力がなければできないものでございまして、ぜひわれわれといたしましても、なお法令には教育委員会が——というふういうたてあるわけでございますが、それに固執する気は毛頭ございません。ただ学校関係の組合側との話し合ひがつかないのでできなかったということでございます。五十七年度に向かいますとは、話し合ひの上でぜひ学校で実施したいというふうな考えを持っております。まだ議員さんにもそのように先生方を指導していただきたいというふうに考えております。

それからまたコンピューター関係につきましては全く話には出ておりません。○総務部長(浅見 裕康君) パートの関係の御質問でございますけれども、恒常的に勤めている方々についての本採用の可能性につきましては、御質問でございますけれども、現在の勤務態様は御案内のとおり登録制でございますので、それをパート制の人事をしていただいているということが実情でございます。

ちなみに給食の関係とか保育の関係、これだけにつきましてはある意見

味では恒常的なパートという見方ができると思いますが、これは
残業に入りまして、いわゆる勤務時間の関係等を見ますと、やはり通常
勤務として定められてあります週四十四時間とか、そういう勤務時間との
比較におきまして、それをおの目的に従って短時間で勤務して、それ
がいわゆるパートの作業としたしましての持ち時間になっておまして、
したがいまして、そういう点におきまして本採用ということはなかなか
いかないというふうになります判断をしております。一応これがいわゆる勤
務場所におきましての一般的ないわゆる事務量、あるいは作業量、
そういったものの比較においての不足に伴いますものとすれば、いわゆるまた
別な角度で人員増というふうなものも検討していく必要があるわけ
です。

当面、ただいま御指摘いただきました恒常的なパートの方々の本
採用につきましては、ただいま申しましたような理由で不可能であると
いうようなことしか申し上げることはできないということでございます。
よろしくどうぞお願いいたします。

○十番(遠藤洋一君)

わかりましたが、いま一応就健のことについてはよくわか
ったんですが、コンピュータについてはまだお考えがないということ。

それから来年度以降は学校の施設等を使うというのをやはり考
えていきたい、ということをお願いしたい。そこで議員の方からそのように指導
していただきたい、ということは多分私のことではない、というふうに思うん
ですが、できれば学校の協力を得るところではない、いわゆる一人入学的な要素
を生み出したりするんじゃないか、大変に父母の方も望んでおります
し、今回も同じようにやはり学校の施設を使わない、ということでは不安
である、というふうに訴えて来ている父母も何人かおまして、できますか
は学校でしていく、ということについてはその方向を教組との話し合いの中でも行
ってほしいです、と、おなかが行くかわかりませんが、教員の組合の方
にも御指導される方もいらっしゃると思っておりますので、来年度については
実際にしていっていただきたいと思っております。

最後に、いま市長の方から合同委員会についての申し入れの内容に
ついてはよくわかりましたが、連絡を密に、というところで非常に密に

取っていただいて、この間の市内の上空の飛行について私どもは大変憂慮してゐるわけですが、ぜひ強い申し入れを窓に行つていただきたいと思ひます。最後にもう一度聞きたいんです。確かにパートのところでは浅見さんの方からいろいろ説明があつたわけですが、いまあれですか、恒常的にパートで働いてゐる方というのは何人くらいゐるのか、こういうことだけ、最後に伺つておきたいと思ひます。それで終わります。

○総務部長(浅見 裕康君) 人員でござりまするけれども、給食が約十名、保育所関係でゐる程度でござりまする。

○十番(遠藤 洋一君) わかりました。どうもありがとうございます。それだけにしておきたいと思ひます。

○議長(小林 菊三君) 次に十一番松山清君。

○十一番(松山 清君) 一般質問をさせていただきます。

一応だけでございます。市長の来年度――五十六年度予算編成に当りまして、予算編成方針についてお尋ねをいたします。

すでに市長におかれましては、来年度予算の編成を進められていゝると思ひます。

私は今度の予算編成、田村市長のもとで初めての当初予算編成であるということで、大変関心を持っております。特に現在の状況――国や都による補助金削減等の圧迫が強まっておりますが、こういう中で、市長が初めての当初予算編成を市民の生活擁護の観点、これを貫き通した編成としてやっていただきたいと思ひます。市長の予算編成の方針はどのようなものか、簡単ですが、お聞かせいただきたいと思ひます。

(市長 田村 匡雄君 登壇)

○市長(田村 匡雄君) ただいまの御質問に対してお答えいたします。

昭和五十四年度の予算編成については、すでに御承知のように国、都にあつても非常に厳しい財政状態であります。新年度予算編成は非常に苦慮してゐるわけですが、当市の場合は、特に国や都に財源を依存してゐる度合いが非常に強く、新年度予算編

成に当たっては、これら国、都の補助等がどれだけ得られるかが、重要な
かぎを握っているわけでございます。現下の情勢を見ますと、きわ
めて厳しい状況であるわけでございます。

このような状況の中で、都に財源を依存している福生市にお
いては、厳しい予算の編成を余儀なくされてゐるわけですが、いま
以上に経常的経費の節減や内部努力を図るとともに、自主財源
の確保に努め、それで得られた財源を最大限に生かして、基本
方針に沿って施設の充實を図っていきたいというふうに考えて
おります。

答弁にかえさせていただきます。

○主審(松山清君)　そういう考えも一つの予算編成方針かと思ひますけれ
ども、ちよつと立ち入ってお聞かせいただきたいと思います。思うんですが、すでにこ
れが予算編成の方針の一つだろうと思ふんですが、すけれども、十月初め
に市長名において、昭和五十六年度予算編成についてというような形で、
これは毎年そういう形で前年度文書を各課に出されてゐると思ふんです。

が、今年度も出しておられるようでございます。今年度の五十
六年度予算編成の方針というものについても、昨年度と大し
てかわりばえもしないように、私は見受けたのですけれども、
特にやういふ点はないかと、五十六年度については昨年度と予
算編成についても大変変わつてきておるんだというふうな、こ
とがあれば、それをひとつ出していただきたいと思います。

それで、ちよつともう一度ついでにお尋ねいたしますけれども、そういう
予算編成についての中で、年度によつて、いろいろ分かれてゐると思
ふんですが、東京都が特に東京都自身の財政再建という名
のもとに、市町村に対してきつめて厳しい状況に当たつてきていて、
補助金の削減、これが必然的に予測されるわけですから、
現実的にそういう形で市の方でもそういう認識をされてゐると思
ふんです。こういう東京都の状況は、もろに当市においても影
響されるわけですから、そういうことに対して、いままでも何度
かお尋ねしてきたんですが、来年度予算の編成に当たり

まして、たとえば今年度と同じような状況で、市が少な、財源の中でも十分に肩がわりをしていくという中で、言葉が悪いかもしれませんが、市民への影響を最小限に食い止めていくというふうにお考えにはなっているんだらうと思うんですが、その点についてひとつどうか伺いたい。

それから施策の問題ですけれども、施策調書を特にきわめて短い言葉で言っておられるわけですが、基本構想の方針に基づく実施計画、これにより計画的、重点的に予算編成を組むという、これは言ってみればごく基本的なものだらうと思うんですが、言いかえれば市長におしては、五十六年度の予算でどういう点を町村市長として打ち出しをしていくのか、その辺をひとつお聞かせいただきたいと思います。と申しますのは、特に田村市長になつてこれで九月、十月と三回の定例会を迎えて、九月、十月に、今回の定例議会もそうですが、一定の金額的にはかなり大きな一般会計の補正予算が計上されてい

るんですが、補正予算として九月の施策を打ち出しているとはとても見えなわけです。多少、当初で組んだ施策の予算としては変更があった中で、そういうものの補正程度で、施策という形で新しいものを打ち出していくという形は九月、十月の補正では全く図られていないと思うんですが、そういう点では来年度の当初予算ということになるんだらうと思うんですが、基本構想の方針に基づく実施計画、これによつてやっていくわけですが、そういう中で市長としてどういう点を実施していくのか、その辺、現段階で多少とも具体的にはなつてきているんだらうと思うんですが、その辺をお聞かせいただきたいと思います。

それから一般会計と他の会計との問題なんですが、従来もそういう形で出されてきているわけですが、一般会計から他会計へ繰り入れるといふようなものについて安易に考えるものではないと、期待するなというこ

出されてゐるように思うわけですが、今年度もそういうふうに出されておられるようです。という、たとえば一般会計から、そんなに出さないというふうな、もしそういうことになつてしまえば、特別会計なんかも財源確保ということになれば、住民負担というふうな形になるおそれもある。もう一步国や都に対して積極的に財源確保という形の働きかけをも強めなければならぬと思つたんですけれども、そういう考えでやていくのかどうかについてお聞かせいただきたいと思います。

それともう一つは、私は予算編成に当たつて、毎年、本当にもう口酸ぽくなるように福祉に対しての施策の充実というものを、これは石川市長時代からもうたびたび言つてまいたわけですが、これでも、その点については、田村市長は十分それに力を入れていていただきたうと思つてゐるわけです。それだけに五十六年度に期待をしてゐるわけです。特に福祉を進める上で、福生市において今年度というか、こ

こで大変いいことの一つとして、前々から私なんかも議会でもたびたび要望しておりました生活保護級地、これが二級地で長い間いたわけですが、厚生省の告示で、十月一日から一級地に昇格ということが出されました。

私も関係住民の団体の方々とことし三回、合計で三回ほど厚生省の関係の方に交渉に参加してまいりましたけれども、ようやく十一月末厚生省の告示で一級地昇格というふうなことで、最低限の福祉の基本みたいなところが二級地から一級地に昇格ということではレベルアップ、金額で約一〇%近く私われるわけだ、こういうことがこの十月から迎えるわけですから、もう一つのことを一つの契機にしまして、来年度においては一層そういう福祉に対しての充実というふうなことで力を入れていただきたうと思つたんですけれども、その辺についてのお考えについてどのように思つてゐるのか、御答弁いただきたうと思つています。

○市長(田村 匡雄君) 自席からお答えいたしますが、予算編成の件でございます。正直なところ私ももちろん初めてでございます。慎重には慎重を期してやっていきたい、というふうに考えております。

また、いままでのパターンでいくかというふうなことでございますけれども、大綱としたりやはりそれが一番健全な予算ということになるんじゃないかと思っております。しかし、いま各課部へ来年度の予算をどういうふうにしたらいいかというふうなことで出しております。それがまだまとまっておりませんので、いまここでどうのこうのというお答えはできなくて申しわけないんですが、現在のところ、そういうことでございます。

それから、もちろん都や国に対する予算要求というものも、これは市の立場、あるいは防衛庁等へ基地対策の旨様を通じていろいろやっておりますし、また市長会とか、いろいろの関係

でそういう方の働きかけはやっておりますし、今後もやっていきたい、というふうに考えております。

それから特別会計の関係、繰り入れ等でございます。これもこうったものもやはりでざるだけ考えさせていた、ということ、ふうに思うわけでございます。

漠然とした答弁で申しわけなんですけれども、いまのところまだはっきりとこういふことだと言えないうで申しわけございませんが、そういうことでございます。

○十二番(松山 清君) もうひとつ整理してお聞きしておきたいと思っておりますけれども、市長に来年度予算編成についての大きなお考えというのは当然、市長として持っておられると思うんです。いま各課でいろいろ編成を進めておられて、当然、市長に上がってきてそれを予算編成するということになると思うんですけれども、それを待って市長のお考えということではなくて、すでに五十六年度予算の編成についてというのは十月初めに出